

# ミラフローレス区親善訪問

実施報告書

令和6年6月21日(金)～6月28日(金)

渋谷区議会

# 目次

はじめに	1
訪問団一覧	2
全体行程	3
詳細報告	4-13
まとめ	14
訪問を終えて	15-18

## はじめに

令和6年6月26日、渋谷区とペルー共和国リマ市ミラフローレス区は姉妹都市提携に関する覚書を締結しました。両都市が友好関係を築き、文化・教育、観光、スポーツ、環境、科学技術・イノベーション等の各分野において、それぞれの課題や取組み、経験、ノウハウを共有することで、渋谷区が国際都市としてさらに発展することが期待されます。

姉妹都市提携を通じて様々な分野で区民の国際交流を促進し、多文化共生の視点から地域社会の活性化を図るため、区議会議員としても具体的な施策を渋谷区に対して提案していきたいと考えています。

そこで、姉妹都市提携に関する覚書の調印式への参列に合わせ、今後の渋谷区の取組みに繋げていくため、親善交流と視察・調査を目的として、区職員とともに訪問団を結成し、現地を訪問しました。

以下、その結果を報告するとともに、現地で得られた成果を渋谷区職員と共有し、区政に反映させることで、区民の皆様にとって有意義な両都市間の連携となるよう努めてまいります。

令和6年12月

渋谷区議会議員

丸山高司

一柳直宏

伊藤毅志

久永 薫

## 訪問団員

No.	氏名 (敬称略)	フリガナ	所属
1	長谷部 健	ハセベ ケン	渋谷区長
2	丸山 高司	マルヤマ タカシ	渋谷区議会議長
3	一柳 直宏	ヒトツヤナギ ナオヒロ	渋谷区議会
4	伊藤 毅志	イトウ タケシ	渋谷区議会
5	久永 薫	ヒサナガ カオル	渋谷区議会
6	宮本 安芸子	ミヤモト アキコ	産業観光文化部長
7	中嶋 哲也	ナカジマ テツヤ	産業観光文化部 文化振興課長
8	白勢 晶子	シラセ アキコ	産業観光文化部 文化振興課 国際交流主査
9	小池 ひろよ	コイケ ヒロヨ	一般財団法人 渋谷区観光協会

# 全体行程

ミラフローレス区親善訪問日程表 (時間はすべて現地時間)			
月日		行程	宿泊
6月21日	金	10:25 羽田発 08:45 ヒューストン空港着 16:30 ヒューストン発 23:00 リマ空港着	リマ
6月22日	土	09:30-11:00 APJ (ペルー日系人協会) 訪問 11:30-12:30 JICAペルー、JFペルー訪問 午後リマ市内視察 ※ APJ=Asociación Peruano Japonesa (ペルー日系人協会) JICA=Japan International Cooperation Agency (独立行政法人 国際協力機構) JF=The Japan Foundation(独立行政法人 国際交流基金)	リマ
6月23日	日	09:50 リマ発 11:10 クスコ着 クスコ市内視察 13:30-15:50 APJ (ペルー日系人協会) クスコ支部訪問	クスコ
6月24日	月	08:00-15:00 クスコ郊外 インティ・ライミ (太陽の祭り) 視察 17:40 クスコ発 19:10 リマ着	リマ
6月25日	火	9:30 日本大使館訪問 11:00 PROMPERU (ペルー政府観光庁) 訪問 12:00 Mater Purissima学院訪問 15:30-18:30 ワカ・プクヤナ遺跡 視察 マレコン公園 (海岸沿い) 視察 19:00-21:00ミラフローレス区・区議会との交流会	リマ
6月26日	水	11:00-12:30 ミラフローレス区庁舎訪問・区議会訪問 * 姉妹都市協定調印 13:00 ミラフローレス区主催昼食会 15:30 リマ商工会議所訪問 夜間：リマ出発	(機中)
6月27日	木	00:55 リマ発 07:35 ヒューストン着 11:35 ヒューストン発	(機中)
6月28日	金	15:25 羽田着	

## 1. APJ(ペルー日系人協会)

日時	6月22日（土） 09:30 - 11:00
同席者	【同席者】ペルー日系人協会 会長 岡田フランシスコ氏 副会長 齋藤 カロス氏 幹事長 具志堅フリオ氏 監事長補佐 平岡 八重子氏 会計 執行セルヒオ氏 会計補佐 儀武 ロスマリ氏 ほか
目的	今後の姉妹都市関連事業の円滑な遂行のため、今年で125周年を迎えるペルー共和国への日系人移民の歴史と現状について理解し、姉妹都市であるミラフローレス区を有するペルーの首都リマにおける日系人コミュニティの方々とつながりを深める。



### ■ タイムスケジュール

- 09:30～10:30 紹介、概要説明、意見交換、記念品交換、写真撮影
- 10:30～11:00 日秘文化会館（博物館、道場、劇場、医療施設）の案内

### ■ 概要

リマのペルー日系人協会は、1917年11月3日に設立された。ペルーで100年以上の歴史を持つ非営利団体で、ペルーの日系コミュニティを代表する。地方にも、APJクスコなど15以上の「APJ」と呼ばれる日系人協会があり、リマのAPJともネットワークがある。リマのペルー日系人協会は、ペルーのリマ、ヘスス・マリア地区にあるペルー日本人文化センター（CCPJ）を本部としており、病院を併設している。

### ■ 内容

ペルー日系人協会会長の岡田フランシスコ氏をはじめ、協会の大勢の方で出迎えていただいた。2024年は日系移民125周年となっており、今後の行事予定や、連携の可能性などについて意見交換を行った。意見交換のあとは、1967年に建てられた日秘文化会館の中をご案内いただいた。道場や劇場があり、医療施設も隣接する日系人や地元の方の文化と生活の拠点を見ることができた。また、移民資料館では、移民の歴史について説明を受けた。展示されていた日系移民の歴史の数々は、125年前に790人の日本人が移民として上陸して以来、最下級の労働者として農園での過酷な労働に従事してきた1世の歴史、世界大戦で敵国民として受けた扱いにより、現在の3世が日本語を話さなくなった都市部の日系人の苦難など、日本人として日系移民の苦難の歴史についても語られており、広く伝えていく必要があると考える。彼らの苦難と努力の結果、現在は約20万人の日系人が活躍している。125年前に遠く海を渡ってきた日系人の方々の苦勞と活躍に思いを馳せた。

また、視察の時間はなかったが日系人のためのスポーツ施設も保有しており、所属のスポーツチームとの交流についても話をする事ができた。

今後も渋谷区での展示会の開催など、より交流を深めていきたいと話し合いを行った。

### ■ 課題と今後のアクション

日本からペルーへの移民は入植125周年を迎え、ペルーから日本への移民は入植35周年を迎える。日本からペルー、およびペルーから日本への移民の歴史や現状について知ることは、ペルーと日本の関係への理解を深め、国際的な視点を培うことに寄与し、これからの渋谷区民とミラフローレス区との交流の原点となると考える。今後機会を捉えて、区内で移民に関するパネル展などを開催し、広く区民へ移民の歴史や現状を伝え、さらなる交流の礎としたい。

日系ペルー人の方々は親日で日本語を話す方もおられ、渋谷区とミラフローレス区の交流を進める上で大切な存在である。今回の訪問で深めたご縁をもとに、引き続き相互の交流、情報共有を続け、今後渋谷区からのミラフローレス区への訪問団などがあるときには協力いただくようお願いする。

入植125周年を記念した記念壁画事業を実施するにあたり、渋谷を取り入れたいとのことで、渋谷区の象徴である八幡公等を取り入れた壁画デザインを提案する。

内容

## 2. JICAペルー

<p><b>日時</b></p>	<p>6月22日（土） 11:30 - 12:30</p>
<p><b>同席者</b></p>	<p>【同席者】西村 貴志 JICA ペルー事務所所長 柏木 正平 JICA ペルー事務所次長 早川 泰史 JICA ペルー事務所所員 上野 宏之 独立行政法人 国際交流基金リマ日本文化センター所長</p>
<p><b>目的</b></p>	<p>1977年創設依頼長年にわたり日本とペルーとの架け橋として活動しているJICAペルー事務所を表敬訪問し、日本からペルー共和国への援助の内容などを理解するとともに、経済社会インフラの整備等の分野において、渋谷区とミラフローレス区の懸け橋となっていたくよう、連携・協力を図る。</p>
<p><b>内容</b></p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p><b>■ タイムスケジュール</b> 11:30～12:30 紹介、概要説明、意見交換、写真撮影</p> <p><b>■ 概要</b> JICAペルー事務所は1977年に設立。その後、1979年8月に日本・ペルー両国の政府間で締結された技術協力協定の署名により、ペルーにおける公式な二国間援助機関となった。</p> <p><b>■ 内容</b> JICA（国際協力機構）ペルー事務所訪問。西村JICA所長は、2022年10月に就任。着任直後の11月には毎年開催される2万人の日系人が集まる『祭り』のイベントがあり、ペルーの日系人の団結力をまざまざと感じた。この団結力を是非とも日本の方々にとってほしいとのこと。 現在日本からの海外協力隊員は医学療法士や司書、市役所でゴミに関する処理を指導する環境教員、観光資源の担当など38名の隊員が派遣されペルーの各種技術力向上に尽力している。 JICAペルー職員の橋渡しにより、渋谷区のスタートアップ支援担当がミラフローレスのスタートアップ担当者に今年7月にオンラインレクチャーを行い、8月にはJICA派遣でSHIBUYA QWS に来日予定。 対日投資、外国企業の誘致活動、スタートアップの海外展開サポートについてはJETRO(日本貿易振興機構)の担当領域であるが、ペルー側に特に関心が高いのは、環境問題、経済開発、防災といった社会課題解決に関するもので、JICAが担当する事柄であることから、これらに関するスタートアップを渋谷からペルーへ紹介することを考えている。 リマも地震が課題。ミラフローレスはリマでもトップクラスのおしゃれな街であり、そこから防災・減災を発信することはペルー内でもインパクトがある。ミラフローレスのカルロス・カナレス区長は渋谷の文化を熱心にペルーに発信している。 JETRO(日本貿易振興機構)の2022年のレポートによると、中南米の他国に比べてペルーのスタートアップへのベンチャー投資額は未だ少なく、2020年には中南米全体の1%（ブラジル6.2%、コロンビア9%）に過ぎなかった。ペルーにおけるスタートアップ向けの資金不足のため、100万ドル以上の調達をするスタートアップ企業の割合が2.6%と中南米地域の平均を下回っている。まだユニコーン企業も存在しなかった。しかし、ここ数年はペルーのスタートアップへのベンチャー投資が急激に増加しており、2020年末には4,600万ドルに達した。そのうち、40%が教育系、27%はEコマース系、18%はフィンテック、7%は人事ソリューション、あとの8%はその他の分野のスタートアップが投資を受けた。 また、ペルー版の忠犬ハチ公、『バギー』と本家『ハチ公』とのコラボ、忠犬の逸話が語り継がれている各地を結んでの忠犬サミット、『バギー』の銅像をミラフローレスに建てたいとの案も出ている。</p> <p><b>■ 課題と今後のアクション</b> ペルーJICAで取り組んでいる、スタートアップ支援等の分野で渋谷区とミラフローレス区を交えた連携について共同で取り組んでいく。 渋谷区とミラフローレス区のスタートアップ支援担当同士をオンラインでつないで情報共有をする。 ペルーで関心の高い分野の渋谷区のスタートアップをペルーに紹介したり、渋谷の社会課題解決に向けたスタートアップをペルーから紹介してもらう等相互連携を進める。</p>

## 3. APJ（ペルー日系人協会）クスコ支部

<b>日時</b>	6月23日（日） 16:00 - 18:00
<b>同席者</b>	【同席者】 クスコ日秘協会 エクトル・スエナガ・ピニロス ルイス・タバコ教授 ダリア・ノウチ ペルー日系人協会会長 ハルミ・スエナガ ペルー日系人協会会員 ペルー日系人協会 理事 日本語学センターの教師、生徒ほか
<b>目的</b>	姉妹都市事業の円滑な遂行のため、今年で125周年を迎えるペルー共和国への日系人移民の歴史と現状について理解し、今後訪問団などが結成される際には訪れる可能性の高いペルーの旧都であるクスコにおける日系人コミュニティの方々とのつながりを深める。
<b>内容</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p> <b>■ タイムスケジュール</b>                  16:00～18:00 紹介、語学センター案内、意見交換、写真撮影             </p> <p> <b>■ 概要</b>                  地方に15以上あるペルー日系人協会のひとつ。リマのAPJともネットワークはあるが、それぞれ独立採算制をとっている。クスコにおける日系人のコミュニティであり、日本語だけでなく、文字の書き方や文化も学ぶことができる場所となっている。             </p> <p> <b>■ 内容</b>                  インカ帝国の都であったクスコの視察にあわせ、APJ（ペルー日系人協会）クスコ支部を訪問した。ダリア・ノウチ クスコAPJ 会長、スエナガ・ピニロス氏、ハルミ・スエナガ氏らと懇談し、クスコにおける日系人の歴史と現状についてお話を伺った。ノウチ氏は、当時、契約移民としてペルー共和国へ出国後、マチュピチュ集落に定住し、ホテルの開設、村を創設するなど、マチュピチュ村を創った野内与吉氏の御子孫であり、当時の苦勞から発展に至るまでのお話を聞いた。日本人としてこの事実はあまり知られていないため、伝えていきたいと感じた。             </p> <p>                 リマのペルー日系人協会とは違い、地方都市ならではの経済状況であるため、施設の維持管理が厳しい状況にはあるが、日本人の伝統や文化が薄まらないように、日本語の教育や、文字の書き方、日本の伝統文化を教えているとのこと。日系4, 5世ともなると日本が話せなくなっている。             </p> <p>                 クスコのペルー日系人協会の方々が集まり、歓迎していただいた。遠く日本から先祖の方々がペルーに移住し、そしてクスコに暮らしてきた歴史や現状をお聞きし、施設内を案内していただいた。日本から離れた場所で活躍しておられる日系人の方々の姿に深い感銘を受けた。             </p> <p> <b>■ 課題と今後のアクション</b>                  日系ペルー人の方々は親日家で日本語を話す方が多くおられる。今回の訪問で深めたご縁をもとに、引き続き相互の交流、情報共有を続け、今後渋谷区からの訪問団などがクスコ方面へ訪れる際に、交流の機会を設けてもらう。                  また、クスコにおける日本人移民のフォトブックを作成中とのこと、区内の図書館等に配置する等検討したい。             </p>

## 4. 在ペルー日本国大使館

<p><b>日時</b></p>	<p>6月25日（火） 09:30 - 10:30</p>
<p><b>同席者</b></p>	<p>【同席者】 参事官 山倉良輔氏（当日は臨時代理大使） 二等書記官 伊藤 涼氏</p>
<p><b>目的</b></p>	<p>ペルーにおける国内情勢などについて大使館員から情報提供いただくとともに、今後の姉妹都市連携に対する協力等を依頼する。</p>
<p><b>内容</b></p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p><b>■タイムスケジュール</b> 09:30～10:30 紹介、概要説明、意見交換、写真撮影</p> <p><b>■概要</b> ペルーの首都リマにある日本の大使館。相手国政府との交渉や連絡、情報収集・分析、政治・経済関係の構築・維持など外交活動、広報活動、自国民の保護、ビザの発給などを行っている。</p> <p><b>■内容</b> リマ市の日本大使館を訪問。山倉参事官、伊藤二等書記官と面談。今回のミラフローレス区との姉妹都市協定締結式にも山倉参事官、伊藤二等書記官が同席。山倉参事官からペルーの国内情勢、政治情勢、外交政策、日本との二国間関係等の説明を受ける。 ペルーは中南米で、日本が最も長い外交関係（2023年で150周年）を有する国。アマゾン川の源流はペルーで、クスコのあるアンデス高地や、ナスカの地上絵、マチュピチュなどの観光資源、世界生産量1位の銀をはじめ、銅（生産量世界2位）、亜鉛（生産量世界3位）など豊富な鉱物資源国でもある。二国間関係では、150周年の機会を活用して首脳会談（2023年8月）や3度の外相会談を重ね、協力関係を幅広く議論を行っている。その裏には、中国の積極的なアプローチがある。港湾や鉱山、エネルギーに積極的に投資するとともに、最大の貿易相手国であり、街中には中国車のディーラーも数多く見られた。在留邦人は3千人以上おり、製造業や鉱山事業等において日本の大手企業が数多く進出。 国内情勢では、2016年のクチンスキー大統領就任以降、汚職疑惑等で5人の大統領が任期途中で辞任を繰り返し、8年間で6人の大統領が就任するなど、政治面では混乱が見られる。2022年に自主クーデターに失敗し罷免に追い込まれたカスティージョ大統領の後を受けたボルアルテ副大統領（現職・女性）が就任するも、議会に与党を有さず、主要閣僚の交代が相次ぎ、また大規模な抗議デモが発生するなど政権基盤は脆弱。2023年、経済はマイナス成長（▼0.5%）に陥った。経済の立て直し、不法移民などによる街頭犯罪の急増など対処すべき課題は山積しており、国民からの支持率も一桁台と低迷しているとのこと。  大使館としては、日本の関連企業やミラフローレス区とのつなぎ、日本における渋谷区のプロモーションなどの協力もできればと考えている。</p> <p><b>■課題と今後のアクション</b> 9月にミラフローレス区で祭りがあり、日本国大使館もブース出展する予定とのこと。渋谷区ゆかりのものなどを置いていただき、区のプロモーションについて協力を依頼する。 今後も姉妹都市関連事業などに関して、ミラフローレスを中心としたペルーに関する情報提供をいただくとともに、連携協力していく。</p>

## 5. PROMPERU（プロムペルー政府観光庁）

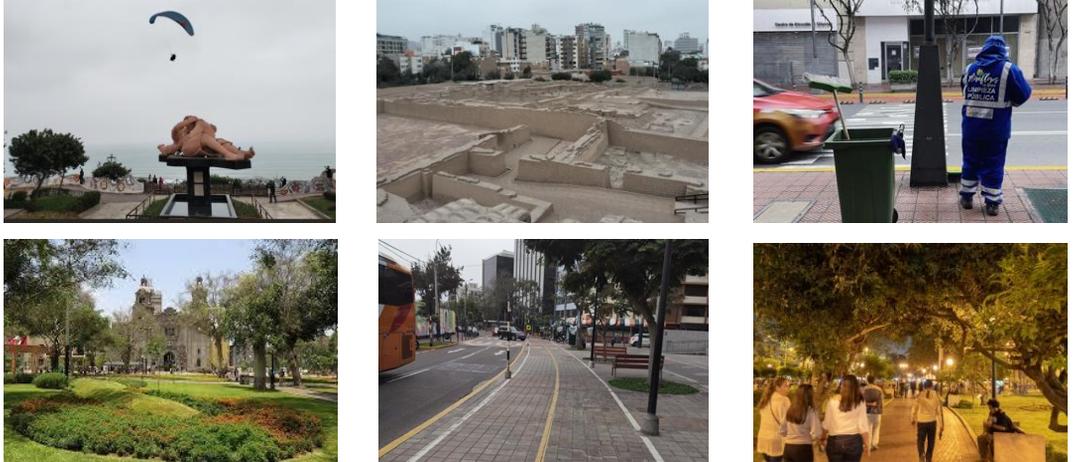
<p><b>日時</b></p>	<p>6月25日（火） 11:00 - 12:00</p>	
<p><b>同席者</b></p>	<p>【同席者】 クラリシア・ティラード代表取締役 エルバ・ヤニェスインバウンド観光副部長 ダニエル・コルドバ投資部長 ホセ・ゲラ国際協力専門家</p>	<p>マリア・デル・ソル・ベラスクス観光促進部長 マカリ・ロドリゲス日本市場担当観光専門家 カーラ・フアマニ セクター推進チームリーダー レンゾ・アセンシオ高技術分野専門家</p>
<p><b>目的</b></p>	<p>ペルーの観光促進や、国内でスタートアップ支援などを担当する省庁であるPROMPERU（プロムペルー政府観光庁）を訪れ、今後のミラフローレス区を含めたペルー共和国と渋谷区の観光・スタートアップ支援等の連携の可能性について意見交換を行う。</p>	
<p><b>内容</b></p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p><b>■ タイムスケジュール</b> 11:00～12:00 紹介、概要説明、意見交換、写真撮影</p> <p><b>■ 概要</b> PROMPERU（ペルー政府観光庁）は、ペルーの貿易観光を促進する政府機関。ペルー産品の輸出や観光の促進が主な業務で、ペルー政府観光庁とも呼ばれている。ペルーの魅力凝縮したコンセプトや映像の開発、輸出、観光促進などを所管している。</p> <p><b>■ 内容</b> クラリシア・ティラード代表取締役他と、観光・スタートアップ等に関する意見交換を行った。 投資担当のダニエル・コルドバ部長からは、工業、観光、製造業に力を入れているが、日本企業にもこちらに来てもらえるよう投資を進めたい。工業、観光は後押しが重要、スタートアップエコシステムで海外に向けて発信できるようにしたいとあった。</p> <p>また、JICAとも協力して進めたい。80社のスタートアップ企業を世界に向けて発信した。スタートアップは多種多様。2025年の大阪万博に向けペルー側でも迅速に開設できるよう、プロムペルーで進めている。将来に向けた話し合いを加速したい等との話があった。</p> <p>区からは、スタートアップ支援事業を紹介。渋谷区では、約10年前からスタートアップ支援事業を始めており、日本国内ではトップの実績である。スタートアップエコシステムの構築を進めており、直近では地元企業と共同で成長支援を主眼としたシブヤスタートアップス株式会社を設立している。スタートアップ企業を取り巻く環境を整え、例えばばざ発行や口座開設、居住の手配などを支援している。 本区が関わっているスタートアップの中には、例えば、ドローンを使って殺虫剤を撒くなどアプリで実験中の取り組みなどもある。都市である渋谷では実施できないものがあり、そういった実証の連携をペルーでお願いしたいなどの話を伝えた。 また、日本ではマチュピチュが有名であるが、ミラフローレスのようにポテンシャルがある街がペルーにあることも伝えていきたいと伝えた。</p> <p>ペルーとは距離が離れているので、リアルな交流はすぐには難しいが、デジタルの世界からつなげていくと観光にも相乗効果があるのではという意見もあった。</p> <p><b>■ 課題と今後のアクション</b> 観光施策に関する相互の情報発信については、引き続き検討したい。 また、JICAペルーとも協力しながら、PROMPERU（ペルー政府観光庁）と一緒に 渋谷区とペルーのスタートアップ支援連携等に取り組んでいきたい。</p>	

## 6. Mater Purissima 学院

<p><b>日時</b></p>	<p>6月25日（火） 12:00 - 13:00</p>
<p><b>同席者</b></p>	<p>【同席者】 Mater Purissima 学院長ほか 教職員</p>
<p><b>目的</b></p>	<p>ミラフローレス区内の学校を訪問し、学校の取り組みや様子などを視察し、今後の小中学校間の交流や、渋谷区の教育に活かす。</p>
<p><b>内容</b></p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>■ <b>タイムスケジュール</b> 12:00～13:00 紹介、学校説明、学校案内、意見交換</p> <p>■ <b>概要</b> 1953年に3人の女性によりミラフローレス区内に開校された私立学校。就学前教育から中等教育までが行われている。</p> <p>■ <b>内容</b> 本区広尾小学校とのインターネット交流が予定されている『Mater Purissima 学院』訪問。 学校の概要について説明をいただき、実際に教室や運動施設で授業を受けている様子を見学した。</p> <p>「連想法※を取り入れた教育機関であり、継続的な改善を定期的な実践として組み込み、有能で責任感があり、協力的な人々の育成に貢献し、コミュニティと国に奉仕する子供や若いリーダーを訓練すること。」</p> <p>「環境に取り組む有能で自律的で創造的なリーダーを社会に提供するヒューマンスティックなアプローチにより、変革をもたらす学校としてのベンチマークとなること。」の二つの使命を掲げている。</p> <p>※連想法：単語や概念をきっかけに、関連するアイデアや別のアイデアを連想していくことで、思考の幅を広げ、新たな視点や発見に繋げる手法</p> <p>教育レベルを3つの段階に分けている。 レベル1－遊び心のある環境で感覚、運動、知的刺激を使用する組織的な刺激を提供する方法 レベル2－子どもをあらゆる側面で軸として、知的、身体的、感情的、精神的、芸術的、感情的な能力を最大限に伸ばす包括的な教育を推進 レベル3－保護者と協力し、学生の独自性を考慮した個別指導を推進</p> <p>「ちがいを伸ばす」教育方針は、渋谷区基本構想の「ちがいを力に変える」理念と一致しており、児童・生徒がいまいきと活動している様子が印象的であった。休み時間も学年を超えた交流を深めていた。</p> <p>視察中、多くの子どもたちが日本語で挨拶を交わしてくれた。子供たち世代にも日本への愛着を持ってもらっていると実感することもできた。</p> <p>■ <b>課題と今後のアクション</b> 時差などの関係があるが、ペルー大使館との交流がある広尾小学校と手紙のやりとりや、オンラインなどの交流を検討していきたい。 そのほかに渋谷区の小中学校にてペルーメニュー給食を提供し、同時にペルー大使館から文化紹介やメニュー紹介などをしていただく機会を持ちたい。</p>

## 7. ミラフローレス区（観光資源、文化遺産）

日時	6月25日（火） 15:30 - 18:30
同席者	【同席者】 ミラフローレス区職員（公園、国際交流担当ほか）
目的	ミラフローレス区にある文化遺産や観光資源を視察することで、姉妹都市であるミラフローレス区の魅力を理解するとともに、区の課題解決を見出し、今後の姉妹都市交流に活用する。



### ■ タイムスケジュール

15:00～18:00 職員紹介、概要説明、ガイドツアー、意見交換、写真撮影

### ■ 概要

ミラフローレス区は、旧市街地から約8.5kmの海岸沿いに位置している。  
面積：9.62km<sup>2</sup>、人口：約13万人の現代と伝統が融合した都市であり、多くの観光資源を持ちながら、治安の良さが垣間見えている。

### ■ 内容

ミラフローレス区は、高級住宅地で、中央公園を中心に、放射状にラルコ通り、ディアゴナル通り、ホセ・パルド通りなどの幹線道路が広がるスペインのような街並みが形成されている。

一番の繁華街であるラルコ通り周辺には、ブティック、レストラン、デパートやカフェなどが軒を連ね、人通りは多いが、おしゃれな雰囲気のある街との印象を持った。街が綺麗なのは、行政で頻繁に清掃していること、またごみ箱が各所に設置されているからとのことだった。

海を見下ろす海岸沿いのマレコン公園は、芝生や色とりどりの花が植えられているほか、彫刻やパブリックアートが数多くある。芝生も整備されており、高齢者や子育て世代の憩いの場ともなっている。

街中には専用のサイクリングロードも整備されており、山手通りほどの広さがある通りでは、中央分離帯に歩道、サイクリング専用ロード、芝生、植栽などが整備されており、環境共生都市を謳っている。

ミラフローレス北西部に位置するワカ・ブクヤナ遺跡は、紀元前後から600年頃に栄えたりマ文明として知られる先住民族文明の古代ピラミッド。日干しレンガを積み上げて造られた古代遺跡が高級住宅地にある光景は、渋谷の中にある明治神宮のようであった。隣接するレストランからは遺跡の夜景を見ながら食事ができるなど、観光名所として十分な魅力を発揮できるよう整備されていた。

### ■ 課題と今後のアクション

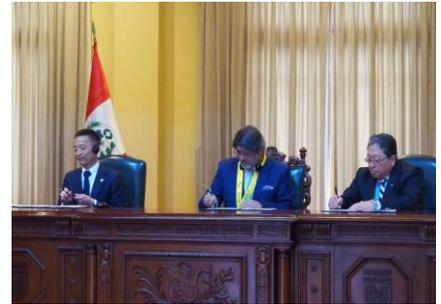
ミラフローレス区は、明るい色彩が特徴の恋人たちの公園など海沿いに数キロに渡って続くたくさんの魅力的な公園があることがわかった。今後、ミラフローレス区との友好の象徴として渋谷区に、ペルーらしさを取り入れた公園を設置することも検討したい。

公園周辺には、歩行者と自転車のレーンが整備されている道路もあり、すみ分けがしっかりされている。渋谷区でも整備の可能性などを研究課題とする。

内容

## 8. ミラフローレス区庁舎・区議会（姉妹都市提携に関する覚書調印）

日時	6月26日（火） 11:00 - 12:30
参加者・同席者	【同席者】 カロス・カナレスミラフローレス区長 ミラフローレス区議会議員 9名 その他関係者多数
目的	ミラフローレス区長やミラフローレス区議会と交流し、相互理解、協力及び連携をさらに深めるために、姉妹都市提携に関する覚書を締結する。



### 内容

#### ■タイムスケジュール

11:00～12:30 調印式、意見交換、懇談、写真撮影

#### ■概要

ミラフローレス区庁舎での姉妹都市提携に関する覚書を締結。渋谷区及びミラフローレス区が相互に交流を深めることにより友好関係を築き、文化・教育、観光、スポーツ、環境、科学・技術・イノベーション等の分野における知識及び経験の相互の交換・共有を図り、もって両当事者の発展に寄与する。

#### ■内容

ミラフローレス区庁舎での姉妹都市協定調印式。区庁舎は時代の重さを感じさせる外観から、エントランスを入るとカラフルな壁面に様々な芸術家による作品が展示されていた。待合室には、歴代の区長の肖像画が飾られており、事前に厳かな雰囲気包まれた。

調印式では、長谷部区長、カルロス・カナレス区長、丸山区議会議長が並んで協定書に調印を行った。日本側が渋谷区議会議員3名、渋谷区職員3名、観光協会1名、山倉日本国大使館参事官、西村JAICAペルー所長、柏木JAICAペルー次長。ペルー側は議員9名が出席。

カルロス区長のご挨拶の後、3名で調印書に署名し記念写真、長谷部渋谷区長ご挨拶と渋谷区の紹介、丸山議長ご挨拶、記念品の交換、質疑応答を行って閉会とした。

閉会後は、関係者全体で懇談会を実施。各分野の専門家等と意見交換を行い、両都市の発展に向けた思いをそれぞれ交わすことができた。

#### ■今後のアクション

姉妹都市提携に調印してゴールではなく、今回訪問した各所で得たこと、見たことをもとに、今後渋谷区とミラフローレス区の間で多分野に渡る連携事業と区民同士の交流を展開していきたい。

## 9. リマ商工会議所 (CCL)

<p><b>日時</b></p>	<p>6月26日 (火) 15:30 - 16:30</p>
<p><b>同席者</b></p>	<p>【同席者】 カロス・ボサダ リマ商工会議所制度ディレクター / 対外貿易研究開発研究所エグゼクティブディレクター          マリエナ・メンドーサ リマ商工会議所観光ギルド会長 ガブリエラ・フィオリニ リマ商工会議所観光ギルド副会長          アドルフォ・ペレット リマ商工会議所ガストロノミーセクター会長 カロリナ・ビヒル リマ商工会議所観光ギルド理事会委員          ホルヘ・ビジャー リマ商工会議所観光ギルド技術秘書 ユシス・ベガ リマ商工会議所企業開発センター所長          セシリア・チア リマ商工会議所イノベーションセンターコーディネーター</p>
<p><b>目的</b></p>	<p>ミラフローレス区を有するリマ市最大の商工会議所を訪問し、渋谷区とミラフローレス区間における産業面での連携の可能性について意見交換を行う。</p>
<p><b>内容</b></p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p><b>■ タイムスケジュール</b>          15:30～16:30 紹介、概要説明、意見交換、写真撮影</p> <p><b>■ 概要</b>          リマを中心として15,000社が登録する商工会議所で、16のセクター別ギルドに分かれ、建設セクター、観光セクター等が存在する。(ほとんどが中小企業) ペルー全土の商工会議所 (Peru Camaras) の一員であり、日常的に全国の商工会議所と連携している。</p> <p><b>■ 内容</b>          イノベーション・スタートアップ部局が出来たのは最近だが、積極的に投資家とのマッチングイベントやキャパシテーションコースを実施している。ペルースタートアップのボトルネックはマーケットとファイナンスへのアクセス不足との認識。海外へ展開する少数のスタートアップはコロンビア、メキシコ、米国向けが主であり、日本向けは現段階ではない。</p> <p>両国の強みである観光、美食文化といった分野に関する意見交換も行われた。リマでは、観光業が成長しているが、レストラン等で排出されるごみ等の問題が悩みの種であるという。日本の食品ロスに対する対策等に関心を持っていた。</p> <p>また、サーキュラエコノミー※についても話題に上がり、今後の連携について期待が寄せられた。</p> <p>※サーキュラエコノミー          従来の3Rの取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動</p> <p><b>■ 課題と今後のアクション</b>          リマの産業について教えていただき、渋谷の産業についてお伝えすることができた。今後も引き続き情報交換をし、産業面での連携の可能性について探ってきたい。          リマの困りごと (例えばホタテの貝殻の廃棄場所に悩みを抱えている等) を、渋谷区のスタートアップで解決できるか等、情報連携していく。</p>

# 詳細日程

## 10. その他

日時	時間	訪問場所・行程	
6月22日 (土)	13:30-16:00	<b>リマ市内視察</b> 	<b>アルマス広場、大統領府ほか旧市街地</b> 
<p>ミラフローレス区を有する、ペルーの首都リマ市の歴史地区の視察を実施した。ペルーの首都リマは、インカ帝国を滅ぼしたフランシスコ・ピサロが南米制服の拠点として作った世界遺産にも登録されている歴史的な街である。リマのセントロ地区には大統領府、カテドラルなど歴史的建造物が集中しており、スペイン統治時代を感じるものであり、新市街であるミラフローレスとは違う魅力を持つ、歴史を感じる地区であった。なお、世界遺産にも登録されている。</p> <p>一時期、治安の悪化が問題になったが、街区には、観光ポリスを要所に配置することにより、安全性が確保され、安心して視察することができた。また、行政による清掃が頻繁に実施されるため綺麗な街並みが維持されていた。</p>			
6月23日 (日)	13:30-15:50	<b>クスコ市内視察</b> 	<b>クスコ郡各村長ほか</b> 
<p>クスコ市のインティ・ライミ視察に合わせ、クスコ市内の視察を行った。かつてインカ帝国の首都として栄えた歴史ある都市の名残がありつつも、現在はスペイン風に姿を変えており、リマとは違う、歴史的風景が広がりを感じた。視察の最中には、クスコ郡の各村長からも歓迎をいただき、渋谷が世界でも知られていることを改めて感じることができた。</p> <p>一方で、観光客が多く訪れることで、混雑や交通渋滞など、渋谷区との共通の課題も散見され、改めてオーバーツーリズムの解決に向けた取組の必要性を実感した。</p>			
6月24日 (月)	10:30-15:00	<b>インティ・ライミ式典参加</b> サクサイワマン遺跡ほか 	<b>ルイス・パントージャ・カルボ</b> クスコ市長、 <b>ビクター・ボルアルテ</b> 前市長ほか 
<p>ミラフローレス区長と親交関係のあるクスコ郡長より招待を受け、南米三大祭のひとつと言われる「インティ・ライミ」視察の機会をいただいた。古代インカ帝国の首都として栄えたクスコで行われるインカ帝国の時代を再現する祝祭であり、近隣諸国だけでなく、世界中から、約15万人の観光客が押し寄せる祭となっている。ケチュア語での物語の表現、当時を反映した衣装など、ペルーの伝統的な歴史や文化を学ぶ機会となった。</p>			

## まとめ

この度の訪問による成果として今後のアクションと可能性を列記します。以下の項目につき渋谷区当局と協議を行い、区政に反映することで区民の皆様にとって有意義な両都市間の提携となるよう努めてまいります。

### ■今後区と協議すべき取組み

#### (文化・教育)

- ・ペルー日系人移民パネル展を区内で開催する。
- ・APJ壁画記念事業における渋谷のモチーフを取り入れた壁画を作成し、両都市の象徴とする。
- ・国の万博国際交流プログラムを活用した大学生等のミラフローレス区等への派遣事業を実施する。
- ・2025大阪万博におけるペルー大使館と連携した交流を実施し、国際交流の活性化を目指す。
- ・両都市における小学校同士のオンライン等による相互交流を実施し、異文化交流の機会とする。
- ・学校給食においてペルー料理を提供し、子供たちにペルー料理のおいしさを実感してもらう。
- ・日系移民フォトブックを区内図書館等へ配置し、区民に日系人の歴史を知る機会を提供する。

#### (観光)

- ・くみんの広場において観光PRブース等を提供し、区民向けに周知する。
- ・ミラフローレスフェスティバルにおいて、在ペルー日本大使館協力のもと、渋谷区PRコーナーを設置し、区の知名度を向上させる。

#### (スポーツ)

- ・AELU(ペルーの首都リマにある日系人のための総合スポーツ施設)所属少年サッカーチームと渋谷区のチームとの日本での交流試合の実施を検討する。

#### (環境)

- ・両都市における環境共生都市の象徴となるような記念公園を設置する。
- ・行政によるごみ対策等に関する情報交換をする。(対策費用の捻出等を相互の研究課題とする)

#### (科学・技術・イノベーション)

- ・渋谷区とミラフローレス区のスタートアップ支援担当同士をオンラインでつなぎ、相互の情報共有を行う。
- ・JICAのネットワーク等を活用してペルーと渋谷スタートアップ企業等との事業連携を行う。

#### (全般)

- ・渋谷区とミラフローレス区当局同士の情報共有、人材交流による関係を構築する。
- ・渋谷区議会とミラフローレス区議会議員同士の相互情報共有、人材交流による関係を構築する。

以上

## 丸山 高司 団員

全体行程については、5泊8日はハードであったと考える。先方の配慮により南米3大祭りと言われるインティライミの招待もあり過密なプログラムとなり、それに加えペルー共和国の交通事情が車社会で移動時間に時間を要したことや滞在時間が予定時間を超えたことにより、ホテルの到着時間が遅れ休憩や就寝時間が削られ体調に影響があった。次回以降の派遣は余裕を持ってあらかじめ状況を予想した行程が望ましいと考える。以下時系列的に訪問・視察した所感を記載する。

### APJ(ペルー日系人協会)訪問について

在住日系人の皆様は、渋谷からの訪問に沸き立ち大歓迎を受けた。本年は、入植125周年となっており今では地位を確立しているが、この間のご苦労は筆舌に尽くしがたい苦難の歴史があった。文化会館では、移民資料館を館内に併設してその歴史を学ぶことが出来る。渋谷区が交流をする上で、こうした先人達の歴史を学ぶことや紹介することを通じて国際的な視野を培い日本を外から俯瞰する為活用すべきであると考え。又当然日系ペルーの方々には親日家であるので、交流の際ご協力を頂くよう検討されたい。

### JICAペルー事務所訪問について

職員の方と懇談を通して幅広い交流を展開していく上で、橋渡しを協力要請した。印象的であったのは、ミラフローレス区でも海で遭難した主人の帰りを待ち続けた忠犬の物語があり、本区のハチ公物語との交流が生まれる示唆を頂いた。リマ市内視察について主に旧市街を視察した。大航海時代スペインによる植民地化の名残がみられ、当時の教会や聖堂、大統領府などの遺構を楽しむことが出来た。印象としては、治安のよさを感じた。

### クスコ市内視察について

クスコ都長からの招待により、市内を視察した。インティ・ライミ開催のため市内は大勢の観光客で賑わいを見せる中、雑踏でも比較的安心して視察が出来、治安は悪くないと感じた。

APJクスコ支部との懇談でも、在住日系人の皆様は大歓迎を受けた。リマ市と違い地方都市であるため支部を維持する経済状態は厳しいものがあると感じたが、精一杯の真心がこもった歓迎に感動を覚えた。作成途中の「クスコへの日本人移民の記憶」と題されたフォトブックの紹介を受けた。完成後には、渋谷区の図書館配置や学校での探究の時間などでの教材としての活用を求めたい。

### インティ・ライミ視察

南米最大の祭りの一つ「インティ・ライミ(太陽の祭り)」は、3部構成により会場が3カ所に分かれるが、アルマス広場を使用して時代絵巻を彷彿させるパレードでは人の往来もままならない程の混雑であった。特に雑踏警備や雑踏整理は行われず、その無秩序ぶりに驚いたが、この地区では余りこの事への関心が薄いようであった。皆インカの民であることを誇りに思い、そして太陽に深い畏敬の念を感じるペルーの人々のお国柄を見た思いがした。

### Mater Purissima学院について

渋谷区立広尾小学校との交流を予定していると承知している。WEB上での交流が中心となると考えられるが、ワンダフル給食を使ってペルー料理の提供を考えるべきである。又先方には、日本料理や、出汁文化の紹介や提供を考えて頂きたい。

### ワカ・プクヤナ遺跡博物館について

町中に忽然と姿を現すかのようなブレインカの遺跡で隣にレストランがある。大規模な遺跡で公開しているもののまだ発掘作業が続いている。文明都市を知り得る絶好の機会であり、もう少し時間がほしかったが、駆け足での視察となった。日本ではそれほど知名度は高くないが見応えは十分であり、今後渋谷区から訪問する際には、必ず訪れるべき遺跡である。

### 恋人達の公園について

海岸沿いの公園である。色彩豊かなタイルがあり、ビビッドなカラーが印象的であった。ミラフローレス区との友好の象徴として渋谷区に、ペルー共和国らしいテイストの公園を設置してみたいかがか検討されたい。

### リマ商工会議所について

時間がない中での懇談であったが先方の熱意が感じられた。観光・文化交流を展開していく上で、支援を期待する。特にペルー共和国原産のジャガイモは、3000種類以上あると言われ、こうしたペルー共和国の食材を渋谷区民に紹介したり、学校給食に提供出来る環境整備を期待する。

### ミラフローレス区庁舎訪問について

多くの関係者が見守る中、姉妹都市提携調印式が執り行われた。昨年カルロス区長が渋谷区を訪問し、今回長谷部区長、渋谷区議会、関係職員が訪問させて頂いた。次回は、ミラフローレス区長は勿論のこと区議会や職員を招請することになると考えられる。姉妹都市提携が強固なものとなり、互いを身近に感じ、交流を深めていく具体的な施策の実現を期待する。

## 一柳 直宏 団員

### 「ペルー共和国リマ市ミラフローレス区との姉妹都市協定調印」について

羽田空港からヒューストン経由で27時間。長距離を移動しなければならず、気軽に行き来できる距離ではない都市だが、ミラフローレスの街はリマ市のシブヤと呼ばれるほどの高級住宅街であり街中に古代遺跡がある観光都市でもある。街はきれいで治安も良く、情報発信力もあり、本区と姉妹都市協定を結ぶには最適と考える。

ペルーとの外交関係樹立や日本人移住の周年式典には、皇室が頻繁にご出席されており、日系移民の歴史を広めるよう努めている。この姉妹都市締結を機に、現地の日秘文化会館の展示されていた日系移民の苦難の歴史と現在のペルー社会を支えている日系人の活躍を本区においても広く区民に知らせる必要性を感じた。

JICAでは、ペルー側が関心の高い環境問題、経済開発、防災といった社会課題解決に関するスタートアップを渋谷から紹介するとの話。スタートアップを通じての両都市の親交が進むことが期待される。

広尾小学校との交流が予定されているMater Purissima学院では、授業の様子を見学。海外の学校と交流を結ぶことは、本区児童にとっても有意義と考える。

姉妹都市提携調印式はミラフローレス区庁舎にて行われた。歴史ある庁舎の外観とは裏腹に、ピロティーでは芸術家の作品が多数飾られており、趣のある庁舎。新しい施策を柔軟に取り込める姿勢は、本区の姿勢ともマッチしており共感が持てた。

カルロス区長、長谷部区長、丸山議長が並んで調印書への署名式は、国際交流の生の現場に立ち会えたことに感動した。良い経験となった。今後、両者が交流を深めることにより友好関係を築く扉が開いた瞬間であった。

調印の場であるホールでは、先方の区議とも交流できた。一度でも交流が持てると、親近感が沸き、今後の友好関係の更なる伸展が楽しみになった。

今回の経験で、机上のみではなく、実際に訪問し、自らの目で姉妹都市の現状を視察することの重要性を直に感じた。議員の海外派遣は、諸外国における地方自治等の実態を視察することにより、国際的な視野を広め、見識を高めるとともに、その成果を区政に反映させることを目的とする。区政の更なる発展に寄与する海外視察への理解を心から願うものである。

## 伊藤 毅志 団員

### 「渋谷区のバリュー」

2024年6月21日から6月28日まで、ペルー共和国リマ市ミラフローレス区との姉妹都市提携調印を主目的とした親善訪問団の一員として、かの地を訪れてきました。

羽田から約30時間かけて到着した日本の裏側に位置するペルーは、驚きや新しい発見に満ちていました。その中でも特に心を動かされたこと、それは渋谷という場所がいかに輝きと憧れを持ってペルーの人々に受け止められているかということです。リマやクスコの日系人協会の方々の熱烈歓迎はもとより、JICAペルー事務所や国際交流基金ペルー事務所の職員からは、スタートアップやアートの融合、ペルーの忠犬「バギー」と「ハチ公」のコラボなど渋谷区と積極的に繋がりたいとの強い意志を感じました。

リマ商工会議所、ペルー輸出観光促進委員会との懇談では、スタートアップや観光というそれぞれの自治体の強みに加え、美食文化という点でも連携を強めたいとの希望を伺いました。何より私が驚いたのは南米三大祭に数えられる「インティ・ライミ」の視察にクスコ市を訪問した際のことです。渋谷区がミラフローレス区との姉妹都市提携を結ぶことを知った、クスコ郡長をはじめとする、郡内の市町村長が大挙登場、手に手に協定書を持って渋谷区との協定締結を求めてきたのです。もちろんその場で調印をできるはずもなく、市町村長に囲まれながら丁重にお断りする長谷部区長の姿に渋谷区のバリューの高さを実感したところでした。

ミラフローレス区議会議員との懇談でも、渋谷区の観光行政や治安、防災対策に大そう興味があるようで、ぜひ次回は渋谷区を訪問して現地で視察を行いたいと、強い希望が出されました。渋谷区への訪問は、他にも文化・教育、スポーツ、環境、科学・技術・イノベーション等の各分野における知識及び経験について相互共有を図る機会となり得ます。

ともあれ、ペルーにとどまらず世界的な人気を誇る渋谷区のバリューは、何もスクランブル交差点の存在だけではありません。渋谷の街がいかに安全で美しく、安心して楽しめる場所であり続けることが肝要、これら政治に求められる渋谷区の価値の維持・向上を目指し、区政進展を進めて行かねばと痛感した訪問になりました。

## 久永 薫 団員

### 渋谷とペルーの連携強化と発展に向けて

2024年6月21日から6月28日までペルー共和国リマ市ミラフローレス区と渋谷区の姉妹都市協定締結調印式のため、派遣団の一員として参加をさせていただきました。ありがとうございました。

ペルー共和国とは、これまで区内に駐日大使館を構えていることもあり、様々な交流を行ってきました。日本とペルー共和国が外交関係樹立150周年を迎え、今後ますますの交流を深めるため、リマ市随一の観光地であるミラフローレス区との都市協定が実現。このたびの表敬訪問ではペルー日本大使館、JAICAペルー、ペルー日系人協会、クスコ市、ペルー輸出観光促進協会、Mater Purissima学院、ミラフローレス区・区議会、リマ商工会議所の皆様と有意義な意見交換をさせていただき、友好を深めることができました。

また今後、渋谷区立小学校とMater Purissima学院のオンラインでの国際交流が始まります。大変期待をしております。ペルー移民125周年の佳節に訪問させていただき、日系人協会では3世、4世の方々とも懇談させていただきました。日本とペルーの懸け橋となり、困難な時代を乗り越えて、現在は日本語教育にも尽力をされていることを伺い感銘を受けました。

今回の都市交流の締結により、さらに教育、産業観光、防災対策等の連携を強化し、両国の発展に私も尽力して参りたいと思います。

# ミラフローレス区親善訪問実施報告書

令和6年12月発行

編集 渋谷区議会親善訪問団

発行 渋谷区議会事務局